

団) 上記の通り、成員のIE得点に関して、等質集団ではできるだけ散布度(SD)が小さく異質集団ではできるだけ大きくなるように、かつ得点の集団平均が近似するように、集団を構成した。

②課題のタイプ(構造化された課題 対 構造化されない課題) 構造化された課題として本実験で用いられたのは「乱数表の集計」であり、構造化されない課題は「創造性検査」であった。

集団課題としての「乱数表の集計」作業は、成員4人のうち3人が3桁の乱数表の所定の部分を分担して、そこに含まれる数の下2桁が00~09, 10~19, 20~29, ……、90~99のいずれであるかによって10分類し、その個数を集計票の所定欄に正の字法で記入していき、1枚の乱数表の担当部分が終了するごとにその集計票を「リーダー」と呼ばれる4人目の成員に渡す。リーダーは正の字法で記入された個数をいったん数字に書き直しておき、作業員3人からの集計票がそろった段階で合計数を計算してリーダーの集計用紙に記録する。この作業は始め5枚の乱数表について7分間、1分間休憩の後、さらに別の5枚の乱数表について7分間行われた(中間の休憩を含めて計15分間)。各集団の成績は、これらの制限時間内に分類されカウントされ、最終的にリーダーの集計用紙に記載された数字のうち正解と合致する数字の個数で測られた。

集団課題としての「創造性検査」には、J. P. Guilford 原案・創造性心理研究会編 S-A 創造性検査(A版)が用いられた。[テスト-1]もの用途考案、[テスト-2]器具装置の希望点列举、[テスト-3]事態の成り行き予想にそれぞれ5分ずつの制限時間が与えられ、いずれも集団成員間で討議した上で集団としての解答を出すように求められた(計15分間)。各集団の成績はこの検査の定める採点手続きに従って得点化された。

従属変数の測定:本研究における最も重要な従属変数は集団の生産性である。その他に、課題に対する成員たちの動機づけと集団の凝集性を測定した。

①集団の成績 乱数表の集計については、リーダーによって提出された集計用紙には数字を記入すべき欄が乱数表1枚につき40箇所ある。すなわち、乱数表中の数の10分類のそれぞれにつき3ブ

ロックごとのカウント数とそれらの合計数を記入する計40箇所である。各集団は乱数表5枚ずつを2回、計10枚を集計しているから、全部で400箇の数字を産出している。これらのうち正解と合致する数字が何個あるかを調べて集団の成績を示す粗点とした(可能な得点範囲は0~400)。創造性検査については、集団討議の結果得られた集団の解答をリーダーが記入した解答用紙を、東京心理総合研究所に送付して採点結果を求めた。本実験では3つのテストの総合点が集団の成績を示す指標(粗点)として用いられた。こうして得られた両課題の粗点は、課題間の比較を可能にするため、それぞれZ得点に変換された。

②課題への動機づけ 各課題終了後に実施した質問紙調査における次の7つの質問に対する各成員の回答をもとに当該課題への動機づけを測定した。各質問に対する回答はいずれも5段階評定で、7問の合計点の集団平均が測度として用いられた。Q1 今やった問題を、あなたはもっとしたいですか。Q2 今やった問題は好きですか。Q3 今の問題は解いていて、楽しかったですか。Q4 今の問題を、あなたは熱心に解いてゆくことができましたか。Q5 今やった問題の結果に、あなたはどのくらい満足ですか。Q6 あなたは別の機会に、今やったような実験に参加したいと思いませんか。Q7 あなたは今やった実験がはやく終わればいいと思いませんか(逆スケール)。

③集団の凝集性 これも各課題終了後に実施された質問紙調査における次の3問への回答によって測定された。いずれも5段階評定で、3問の合計点の集団平均が測度として用いられた。Q8 あなたは別の機会に別の仕事をやるとしたら、今のグループの人達といっしょにやりたいですか。Q9 あなたは別の機会に同じような実験をやるとしたら、今のグループの人達といっしょにやりたいですか。Q10 今の問題の結果はともかくとして、あなたのグループはよくまとまっていたと思いませんか。

結果と考察

1. 集団の成績

等質集団と異質集団における乱数表集計と創造性検査の成績は表2に示す通りであった。